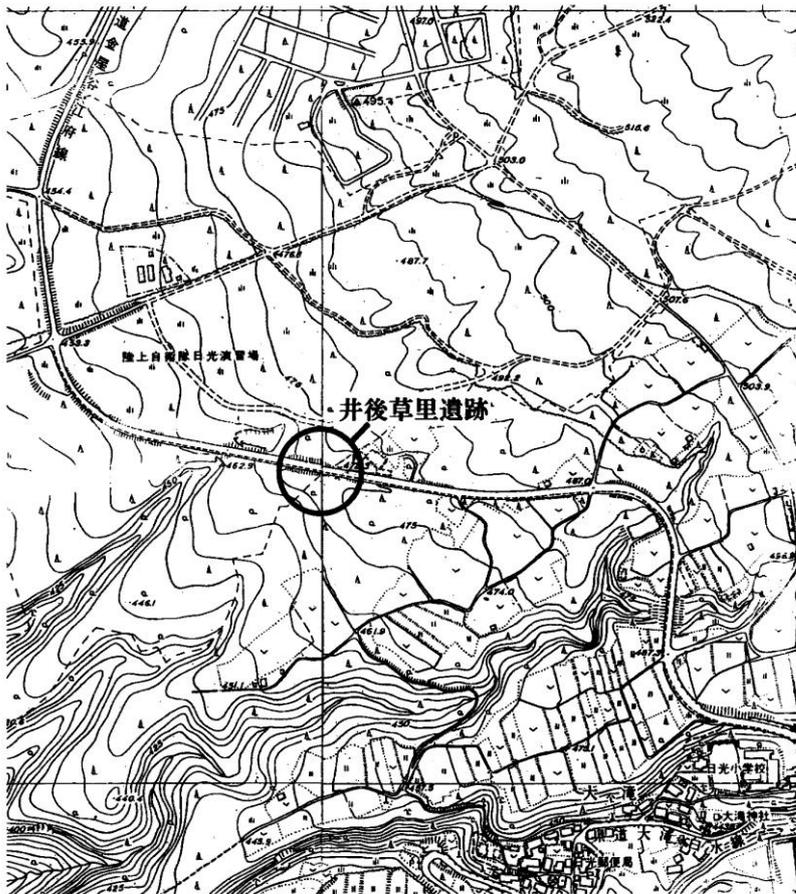
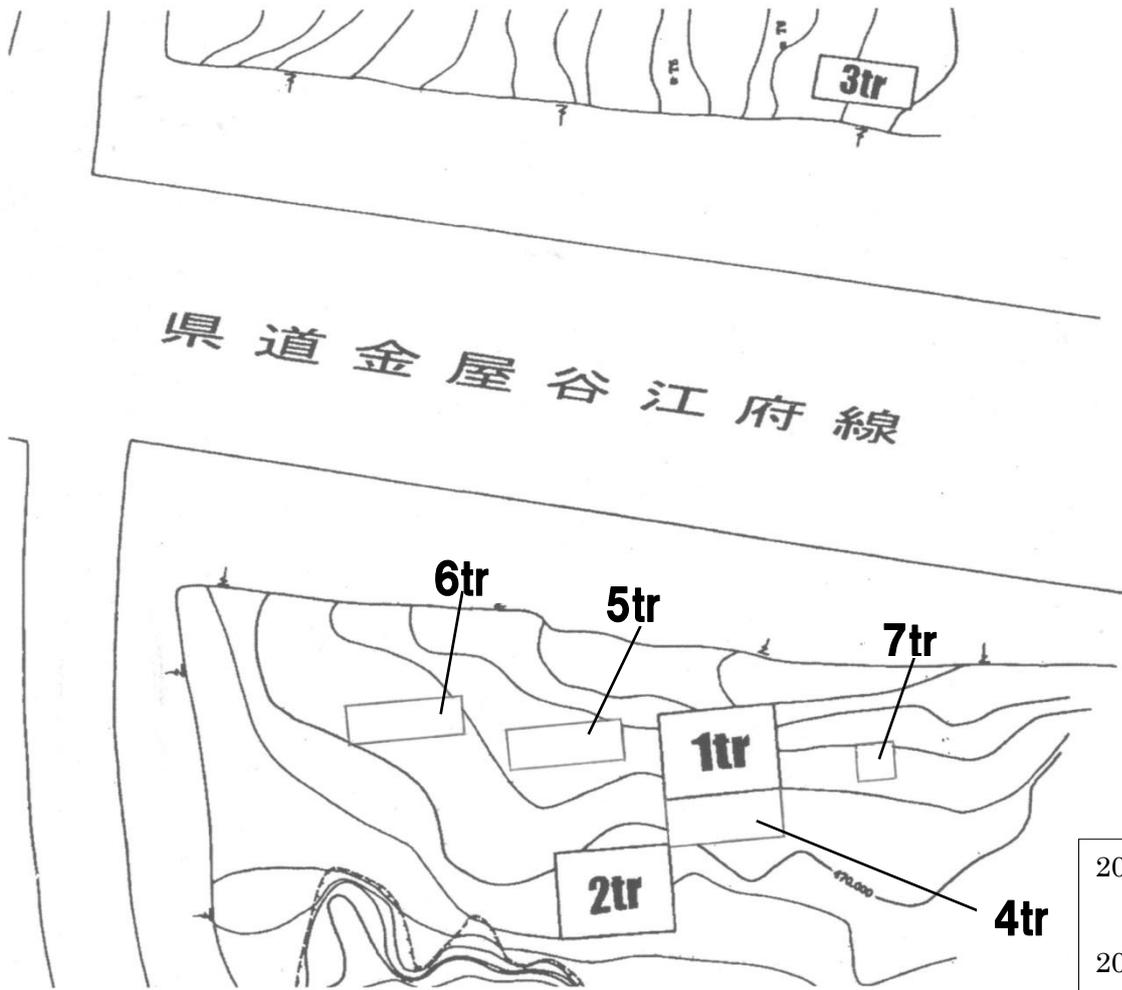


# 井後草里遺跡第3次発掘調査ニュース



## はじめに

井後草里遺跡は、1979年に溝口町教育委員会、2007年に岡山大学考古学研究室による発掘調査が行われ、縄文時代の土器や石器など、生活の痕跡が見つかっています。今回、岡山大学考古学研究室は2009年8月17日から27日にかけて、2007年の調査区に隣接した場所や延長線上の場所に調査区を設け、遺構の範囲や内容を明らかにするために発掘調査を行いました。どのような発掘調査を行ったかをご報告いたします。



2007年調査区  
1tr, 2tr, 3tr  
2009年調査区  
4tr, 5tr, 6tr, 7tr

井後草里遺跡 トレンチ配置図

第4トレンチ



第4トレンチでは約60点の縄文土器片が出土し、多くは表土下のクロボク層(有機物が付着した火山灰の層)の上部に分布していました。時期としては、多くは後晩期のものであると考えられます。また、同層から網などのおもりとみられる石せきすい錘が1点出土しています。

また、クロボク層の下部にあたる層からは複数のピット(穴の跡)が検出され、東側からは調査区外に連続すると考えられる遺構の一部が検出されたことから、じゅうきょし住居址の可能性が考えられています。



## 第5 トレンチ



第5 トレンチ(5tr)では風倒木によるものと思われる地層の横転が確認されました。下から上へ堆積していくはずの地層が横倒しになっています。この真上にある写真がその様子です。

トレンチ東側で遺構の可能性のある土色の変化が見られましたが、クロボク層の微妙な土色の違いを見極めることが難しく、縄文人が掘った穴の痕の範囲をはっきりと確認できませんでした。

## 第6 トレンチ



第6 トレンチ(6tr)ではこの周囲の基本的な土の堆積とほぼ同じ状況で、どの層も水平に堆積していました。

出土した遺物が少ないため、遺跡の中心から少し離れていると考えられます。

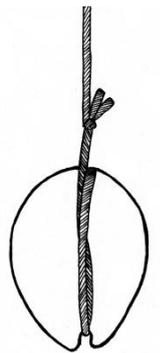
## 第7トレンチ



第7トレンチ(7tr)は他のトレンチの4分の1の面積ですが、第5トレンチとほぼ同じ量の遺物が見つっています。このことから遺跡の広がりがここまで広がる可能性も考えられます。

巨大な石が出土しました。旧石器時代か、少なくとも縄文時代にはここに存在していたはずですがどのようにしてここへ運ばれて、どのような性格を帯びていたのかは不明です。

## 出土遺物について



石錘使用例

今回の発掘では全部で97点の遺物が出土しました。ほとんどは土器片ですが中には石器も出土しました。土器の中には文様が見られるものや、土器の形を整えるために行われた調整の跡が見えるものがあります。(左上図：文様、調整の跡が見える土器片 右上図：左側は剥片、右側は石錘<sup>せきう</sup>の破片)

## おわりに

今回の発掘調査では、第4トレンチの南東部で住居址の可能性もある遺構の一部が確認され、また、第7トレンチにおいて巨大岩の一部が検出されましたが詳細は現時点では解明されていません。これらのことを踏まえ、今後の調査を進めていきたいと思えます。

最後になりましたが調査に協力して下さった地域の方々に厚くお礼を申し上げます。

